

496

⁶⁷Ga-DFO-DSA-Fibrinogenの心・大血管内血拴例および人工血管再建術後例への臨床的応用

高橋恒男、児島陽一、杉江 尚、広瀬敦男、中里龍彦、吉岡邦浩、柳澤 融（岩手医大・放射線科）

最近、血拴症の存在診断のため新しく開発された⁶⁷Ga-DFO-DSA-Fibrinogenを臨床的に心・大血管内血拴例、あるいは末梢動脈人工血管再建術後例に試み、その有用性を検討したので報告する。

対象と方法：対象は心内血拴4例（平均年齢50.2歳）解離性大動脈瘤2例（41.5歳）、多発性肺梗塞＋両下肢静脈血拴1例（23歳）、末梢動脈疾患にて人工血管再建術施行13例（61.6歳）の20例で、装置はHITACHI-γ-VIEW Hで撮像条件は、前処置は行わず中エネルギー用コリメータを用い、3ピーク、20%ウィンドで得られた計数を加算、静注72時間後、総カウント300Kで撮像した。なお、全例とも得られた血拴シンチ画像は同時に施行したCT像、またはIVDSA像と対比検討した。

結果：心内血拴例はCT像で確認された例でも描出されなかった。解離性動脈瘤は解離腔入口部での血拴を描出できたが、肺動脈血拴は描出されず、下肢静脈血拴は証明された。人工血管再建術後例は、下行動脈瘤切除例と人工血管閉塞の2例以外の全てで、人工血管内に(+)～(※)の集積をみとめ、再建術後経過の長短にかかわらず、血拴存在が示唆された。

497

Ga-67-DFO-DAS-Fibrinogenによる心筋梗塞に伴う左心室内血拴の検出

鈴木輝康¹、山崎俊江¹、古西博明¹、大中恭夫¹、増田一孝²、大西英雄³、浜津尚就³、迫田悟²、尾藤慶三²、山崎武¹、木之下正彦²、（滋賀医科大学放射線科¹、）（同部²、）（同第一内科³、）

心筋梗塞では冠状動脈の血拴溶解療法に多大の関心が払われているが、梗塞領域の心筋のakinesis, hypokinesis, 及びVentricular Aneurysmに伴う高頻度の左心室内血拴については、ややもすると関心が少ない。心筋梗塞発症後48時間以内の抗凝固剤投与群と非投与群について、超音波断層法およびGa-67-DFO-DAS-fibrinogen (Ga-67-fibrinogen)を使用して左心室内血拴の有無を検討した。また同時に同血拴の存在診断について、両検査法間の差異を検討した。標識調整後のGa-67-fibrinogen 2mCiを静注後1時間以内に心プール像を、更に96時間後に血拴シンチグラムを撮像した。超音波断層法はGa-67-fibrinogen投与前または投与後に施行した。超音波断層法で検出された左心室内血拴は全てGa-67-fibrinogenで描出できたが、超音波断層法で血拴陰性症例の中約1/6がGa-67-fibrinogenで血拴が描出された。Ga-67-fibrinogen法により血拴の診断を行った所、抗凝固剤投与群では左心室内血拴は約2/7が検出され、非投与群ではそのほぼ全例に血拴の存在を認めた。